

最低限のルール

古藤和枝
滋賀県・25歳・無職

隆さん、お元気ですか。

初めてお会いしてから、もう3ヵ月が過ぎようとしています。たった1週間の合宿でしたが、

あなたを好きになるには十分な時間でした。

あなたのような年上の人に恋をしてしまうなんて、

自分でも少し戸惑いました。

最初は素敵な人だな、くらいにしか思っていなかったのに。

それなのにいつの間にか、

甘えても受け止めてもらえる人だなと、思うようになっていました。でもきっと、あなたは私のことなんて

なんとも思っていないんでしょうね。

そう思うと、素直に自分の気持ちを表現することができました。

「電話、お待ちしております」

「合宿からの帰り、一緒に帰って下さい」

でもあなたを好きだとは、絶対言えません。

それを言ってしまうと、何かがおかしくなってしまうそうでした。

あなたには、奥さんもお子さんもいらっしゃいます。

適当な距離を保っておくことは、

私たちが快く過ごすための、最低限のルールのように感じます。

私は今、先日届いた、あなたからのハガキを見つめながら、

あなたに会えないもどかしさを楽しんでいます。